競技者・監督の皆さんへ　2024 年度競技規則修改正のポイント

（一財）長野陸上競技協会 競技運営委員会

○TR4.3　同時申し込み　~ワールドランキング対象大会（WRk）では国内適用が不可に~

高さを競う競技において、種目が重なったために試技を行う順番において競技者が不在の場合、国際ルールでは「パス扱い」となりますが、国内適用では事前に申告すれば「無効試技扱い」とすることが可能でした。しかし、WRk では国内適用が不可となるため、パス扱いのみとなります。

≪参考≫パ　　ス：その高さは跳べない
　　無効試技：その高さの 1 回目（2 回目）は跳ばないが、2 回目（3 回目）は跳べる

○TR4.4　参加の拒否　~従来は国際扱いだったものが、国内でも主催者の判断で適用可能に~

以下に該当する場合、正当な理由がない場合を除き、当該行為があったら、それ以降の全種目に出場できなくなります。

・当該種目に出場することの最終確認がなされていたにもかかわらず出場しなかった。
・予選や準決勝等でそれ以降に出場する資格を得たのに出場しなかった。
・誠実に全力を尽くして競技しなかった。

個人種目で次ラウンドに進出したものの、リレーを優先させるために欠場―という例が散見されますが、TR4.4 が適用された場合、個人種目の次ラウンドを欠場した時点で、当該競技会のそれ以後全ての種目に出場できなくなります。なお、適用される場合は大会要項・競技注意事項等に明記されます。競技会に参加される場合は、これらを確認する習慣をつけましょう。

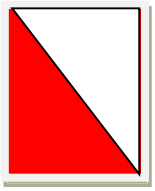
○TR6.4.5 許可される助力　~フィールド種目の競技者によるビデオ映像確認の要件緩和~

録画再生機器や録画映像は録画映像を提供する者のすぐ近くの位置（コーチボックス近辺）であれば、競技区域内に持ち込むことが認められます。

○ コーチがスタンドで撮影した機器を、コーチボックス横で競技者が手に取って操作すること
× 競技者自身が、録画機器等を招集所から持ち込むこと
× 映像確認後にコーチに再生機器等を返さず、競技場所等へ持ち込むこと
※競技場の構造によっては、コーチ席と手渡しで機器のやり取りが出来ない場合もあります。

○TR8.4　スタートに関する現場での抗議（競技中の抗議）　~ともに主催者判断で適用可能に~
○TR8.5　フィールド種目の現場での抗議（競技中の抗議）

従来は国際扱いでしたが、主催者の判断で適用可能（※スタートは SIS 使用時のみ主催者判断で可能）となります。スタートで「抗議中」として競技することを認めた場合、競技者に「赤白カード（斜め半分）」が提示されます。また、フィールド種目で抗議を認める場合には、記録の保全行った上で競技が継続されます。（ともに、審議の結果抗議が認められなかった場合、記録は無効となります）



○TR16.5.3 スタート　~中止事由の修改正　局所的な動きに対して警告を与えることの見直し~

従来、「On your marks（位置について）」または「Set（用意）」の合図の後、音声や動作、その他の方法で他の競技者の妨害をした時、スタートをやり直したり、撃ち戻して再スタートしたりしていましたが、）「On your marks（位置について）」または「Set（用意）」の合図の後、音声や動作、その他の方法で他の競技者の妨害をし、その結果、その選手が他の競技者の不正スタートを生じさせた時のみ中止の対象となります。

したがって、スターターは不正スタートにつながる動きや上記を含めた懲戒事項(TR16.5)につながる動きがなければ、レースを中断したり、撃ち戻したりしません（局所的な動きや微細な動きがあっても、スターターが全競技者の静止の確認をし、号砲を鳴らします）。

また、SIS 使用時にオートリコールで撃ち戻された場合、局所的な動きをしてもそれにつられた競技者がいなければ、グリーンカードが示されます。

※大前提として、「信号機の発射音を聞くまでスタートを開始してはならない」とあります。しかし、競技者も号砲以外の音に反応することが考えられます。「同組の競技者の行為によってとばっちりを受け処分されることがないようになった」とルールにありますが、隣が（局所的な動きではなく）不正スタートしたからといって自分も（号砲を聞かずに）スタート開始してはいいわけではありません。状況によっては不正スタートとして失格になる場面もあり得ます。

©Japan Association of Athletics Federations. All Rights Reserved. T.AOYAGI

○TR20.4　シードレーン　~種目により、異なるシードレーンになります~

・直線種目（100m・100mH・110mH 等）

上位グループ	３・４・５・６レーン
中位グループ	２・７レーン
下位グループ	１・８レーン

1・2・3・4・5・6・7・8
下・中・上・上・上・上・中・下

・200m

上位グループ	５・６・７レーン
中位グループ	３・４・８レーン
下位グループ	１・２レーン

1・2・3・4・5・6・7・8
下・下・中・中・上・上・上・中

・400m・800m・4×400mR までのリレー競走

上位グループ	４・５・６・７レーン
中位グループ	３・８レーン
下位グループ	１・２レーン

1・2・3・4・5・6・7・8
下・下・中・上・上・上・上・中

※ただし、情報処理システムの関係で従来の考え方で実施される場合もあります。(当面、県内はこちら)

上位グループ	３・４・５・６レーン
中位グループ	７・８レーン
下位グループ	１・２レーン

1・2・3・4・5・6・7・8
下・下・上・上・上・上・中・中

○TR32.1　WRk 大会で使用する投てき物は、WA 認証品でなければいけません。

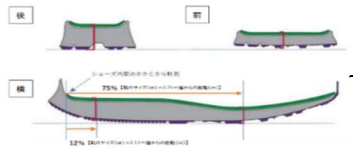
日本陸連認証品のすべてが、WA 認証品ではありません。WRk 大会では WA 非認証品は使用不可となります。なお持ち込みの場合、競技者において WA 認証品かどうかの証明を行うことになります。

○TR32.2　個人持ち込み投てき物の数

WA では競技場に備え付けてある、なしに関わらず 2 個まで持ち込み可能となりましたが、国内は従来通り、競技場に備え付けてある投てき物の持ち込みは認められません。しかし、主催者判断で適用可能となりました。大会要項・競技注意事項を確認の上、対応して下さい。

○TR5.2　競技用靴（再掲…予告通り、2024 年 11 月 1 日から新しい表に基づいて運用されます）

≪競技用靴・靴底厚さ表　2024 年 11 月 1 日から有効≫

種　目	最大の厚さ	その他の要件／注意
トラック種目 ハードル種目 障害物競走	20mm スパイクシューズまたは ノン・スパイクシューズ	リレーにおいては、各走者が走る距離に応じて適用。競技場内で行う競歩競技の靴底の厚さは、道路競技と同じとする。
フィールド種目	20mm スパイクシューズまたは ノン・スパイクシューズ	全跳躍種目で、靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、踵の中心点の靴底の厚さを超えてはならない。
道路競技 （競走・競歩）	40mm	
クロスカントリー	20mm スパイクシューズか 40mm ノン・スパイクシューズ	

○その他

従来の「屋外競技場」と「室内競技場」という分類から、「400m（標準トラック）」と「200m（ショートトラック）」という分類に変更されました。それに伴い、新たな種目も設定されることになりました。

詳細については、審判講習会資料もしくは 2024 年度版陸上競技ルールブックを参照されたい。

文責：青柳　智之（日本陸上競技連盟 競技運営委員会 幹事･JTO／長野陸上競技協会 常務理事）

©Japan Association of Athletics Federations. All Rights Reserved. T.AOYAGI